

株式会社エクストランス

X-MON 3

エスカレーション機能ガイド

目次

エスカレーション機能について	3
実施のタイミングと間隔	4
旧バージョンからのアップデート.....	5
設定方法	6
設定例 1.経過時間に応じて障害メールの送信先を変更する	8
設定例 2.障害が発生したらサービスの再起動を行う	10

エスカレーション機能について

X-MON3.0.5 より、エスカレーション機能を追加しました。

エスカレーション機能の実装に伴い、以下の柔軟な対応を行うことが可能になります。

- 指定された実行タイミングに対し、別ユーザ、ユーザグループへ問題のエスカレーション通知
- 障害発生より指定された実行タイミングに通知と任意スクリプトの実行

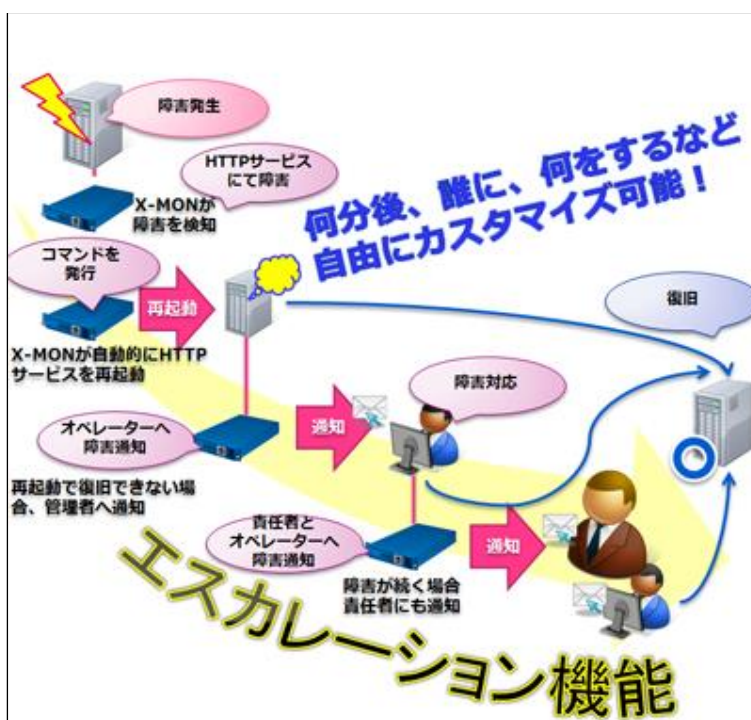


図 1.エスカレーション機能イメージ図

実施のタイミングと間隔



図 2.エスカレーション処理の流れ

エスカレーションは、ホストまたはサービスに障害が発生すると動作し始め、エスカレーション間隔毎に実施します。エスカレーション間隔の設定は、各ホスト・サービスのエスカレーション設定から行います。

エスカレーションは障害が復旧するまで行われます。

障害発生時に行われるエスカレーション処理を1回目とし、設定したエスカレーション間隔毎に任意の通知処理を行います。

旧バージョンからのアップデート

X-MON バージョン 3.0.4 以前からアップデートを行った場合、ホスト・サービス・監視パッケージで設定されている警告灯点灯および TRAP 送信設定を、エスカレーション設定に置き換えます。

設定を変更する監視項目は「表 1.X-MON アップデート時の設定変更一覧」となります。

表 1.X-MON アップデート時の設定変更一覧

設定	設定項目	アップデート前	アップデート後
警告灯点灯			
ホスト設定 サービス設定 監視パッケージサービス設定	イベントハンドラ コマンド	障害時点灯	無し
エスカレーション設定	エスカレーション間隔	(設定なし)	5分
	実行内容	(設定なし)	障害時点灯
	実行タイミング	(設定なし)	1回目から実行
	実行回数	(設定なし)	1回実行する
	対象ステータス	(設定なし)	全て選択
TRAP 送信			
ホスト設定 サービス設定 監視パッケージサービス設定	イベントハンドラ コマンド	TRAP 送信	無し
エスカレーション設定	エスカレーション間隔	(設定なし)	5分
	実行内容	(設定なし)	TRAP 送信
	実行タイミング	(設定なし)	1回目から実行
	実行回数	(設定なし)	1回実行する
	対象ステータス	(設定なし)	全て選択

なお警告灯点灯および TRAP 送信の挙動は、アップデート後も従来通り、障害発生時および復旧時に実行します。

アップデート後は、イベントハンドラコマンドに障害時点灯および TRAP 送信を設定することができなくなります。これらの設定はエスカレーション設定で行うことになります。

設定方法

ホスト一覧

ホスト・サービス管理 | [ホストグループ管理](#) | [サービスグループ管理](#) | [アイコン管理](#) | [構成管理](#) | [ドキュメント管理](#)

検索

新規作成 | かんたん監視登録 | ネットワークからホストを検出する | 削除 | 削除と承認

ID	名称	IPアドレス/FQDN	エスカレーション設定数
Linux-TRAP	Linux-TRAP	127.0.0.1	有効: 0, 無効: 0
logsv01	ログサーバ01	168.19.13	有効: 0, 無効: 0

このボタンをクリックしてホストのエスカレーション設定画面へ移動します

図 3.ホスト一覧画面

エスカレーションの設定は、管理者メニュー「ホスト・サービス管理」から行います。

ホストのエスカレーション設定は、ホスト一覧画面から各ホストに対して行います。

X-MON - サービス一覧

検索

戻る 新規作成 SNMPサービス一括作成 snmpwalk実行 削除 削除と承認

監視パッケージメニュー
 -- 選択して下さい -- 選択した監視パッケージで登録と承認 監視パッケージの新規作成

サービスID	エスカーション設定数	操作
<input type="checkbox"/> PING	有効: 1, 無効: 0	→ 詳細表示 → サービスエスカーション設定
<input type="checkbox"/> XMON_CHECK_DISK	有効: 0, 無効: 0	→ 詳細表示 → サービスエスカーション設定
<input type="checkbox"/> XMON_CHECK_rrdcached	有効: 0, 無効: 0	→ 詳細表示 → サービスエスカーション設定

戻る 削除 削除と承認

このボタンをクリックしてサービスのエスカーション設定画面へ移動します

図 4. サービス一覧画面

サービスのエスカーション設定は、各ホストのサービス一覧画面から各サービスに対して行います。

設定例 1.経過時間に応じて障害メールの送信先を変更する



図 5.設定例 1 で設定するエスカレーションの流れ

障害が発生してからの経過時間に応じて、障害が発生した旨の通知メールを送信する宛先を変更する設定を行っていきます。また、警告灯の点灯による障害通知の設定も併せて行います。設定例 1 で設定するエスカレーションは「図 5.設定例 1 で設定するエスカレーションの流れ」のようになっています。

1. 障害発生時は担当者に通知メールを送信し、警告灯を点灯させる
2. 障害発生後、復旧するまでは 5 分おきに担当者に通知メールを送信する
3. 障害発生後、10 分経過しても復旧しない場合は管理者に通知メールを送信する
4. 障害復旧時は担当者および管理者に復旧した旨の通知メールを送信し、警告灯を点灯させる

これを X-MON に設定するには、対象のホストまたはサービスのエスカレーション設定に「図 6.設定例 1 のエスカレーションパネル」のように入力します。

The image displays three stacked configuration panels for an escalation system. Each panel is enclosed in a red border and contains the following fields:

- Panel 1:**
 - 実行開始回数: 1 回目から実行する
 - 実行回数: 制限する (1 回実行する), 制限しない
 - 実行内容: メール通知 (大阪ユーザグループ), コマンド (標準のサービス障害時通知)
 - 対象ステータス: WARNING, CRITICAL, UNKNOWN, 復旧時
- Panel 2:**
 - 実行開始回数: 1 回目から実行する
 - 実行回数: 制限する (回実行する), 制限しない
 - 実行内容: メール通知 (担当者), コマンド (TRAP送信(サービス用))
 - 対象ステータス: WARNING, CRITICAL, UNKNOWN, 復旧時
- Panel 3:**
 - 実行開始回数: 3 回目から実行する
 - 実行回数: 制限する (1 回実行する), 制限しない
 - 実行内容: メール通知 (管理者), コマンド (TRAP送信(サービス用))
 - 対象ステータス: WARNING, CRITICAL, UNKNOWN, 復旧時

図 6.設定例 1 のエスカレーションパネル

- ①のパネルで、担当者に送信する通知メールの設定を行っています。
- ②のパネルで、警告灯の点灯の設定を行っています。
- ③のパネルで、管理者に送信する通知メールの設定を行っています。

設定例 2.障害が発生したらサービスの再起動を行う



図 7.設定例 2 で設定するエスカレーションの流れ

障害発生後、一定期間を経過しても障害が復旧しない場合に監視対象ホストを再起動する設定を行っていきます。設定例 2 で設定するエスカレーションは「図 7.設定例 2 で設定するエスカレーションの流れ」のようになっています。

1. 障害発生時は担当者に通知メールを送信し、警告灯を点灯させる
2. 障害発生後、復旧するまでは 5 分おきに担当者に通知メールを送信する
3. 障害発生後、15 分経過しても復旧しない場合、サーバの再起動を行う
4. 障害復旧時は担当者に復旧した旨の通知メールを送信し、警告灯を点灯させる

これを X-MON に設定するには、対象のホストまたはサービスのエスカレーション設定に「図 8.設定例 2 のエスカレーションパネル」のように入力します。

Figure 8 shows three panels of an escalation configuration interface. Each panel has a red border and a circled number in the bottom right corner.

- Panel 1:**
 - 実行開始回数: 1 回目から実行する
 - 実行回数: 制限する 1 回実行する
 - 実行内容: メール通知 大阪ユーザグループ
 - 対象ステータス: WARNING CRITICAL UNKNOWN 復旧時
- Panel 2:**
 - 実行開始回数: 1 回目から実行する
 - 実行回数: 制限しない
 - 実行内容: メール通知 担当者
 - 対象ステータス: WARNING CRITICAL UNKNOWN 復旧時
- Panel 3:**
 - 実行開始回数: 4 回目から実行する
 - 実行回数: 制限する 1 回実行する
 - 実行内容: メール通知 管理者
 - 対象ステータス: WARNING CRITICAL UNKNOWN 復旧時

図 8.設定例 2 のエスカレーションパネル

- ①のパネルで、担当者に送信する通知メールの設定を行っています。
- ②のパネルで、警告灯の点灯の設定を行っています。
- ③のパネルで、サーバ再起動の設定を行っています。監視ステータス CRITICAL のみにチェックを入れているので、監視ステータスが CRITICAL となってから 15 分経過した場合のみ、サーバの再起動を行います。